平成２８年度　TOGA国際芸術村構想アクションプラン策定委員会

１．日　時　平成２８年１２月７日（水）１５：００～

２．会　場　南砺市役所　福野庁舎　２０１会議室

３．出席者　別紙名簿参照

４．議　事　①　委員・事務局員の変更

　　　　　　②　SCOTの活動報告

　　　　　　③　TOGAサマーフェスティバル実施報告

　　　　　　④　TOGA国際芸術村構想アクションプランに関する各課の取り組み

５．会議録

１　開会

市長：本日はみなさまご多忙のところご出席いただき感謝申し上げる。SCOTは昨年度、中国でいくつかの講演を行ってきたが、鈴木演劇がアジアでどのような評価を得ているかということを間近に感じることができた。日本の文化・舞台芸術のところでの第一人者ということは当然だが、世界、アジアのほうが、鈴木演劇を必要としているというのを強く感じた。利賀のSCOTの活動等がこれまで以上に各国の芸術家を集める場になっていって欲しいと思う。この時代の流れの中で、日本の舞台芸術というものが世界へ、鈴木演劇がもう一度羽ばたいて出て行く時期なのだろう。そういう中で過日、鈴木さんと石井知事とお食事をさせていただいたとき、平成３２年にオリンピックなのでシアターオリンピックスを１年前倒しにして平成３１年くらいに開催できればというような話になった。鈴木さんも知事も１年前倒しはちょうど良い時期なのではないかということになりこのように進んでいる。そういう中で、受け入れ態勢というか、３１年に向けて目標が決まったのでどうしていかなければならないのかということを考えると、まさにこのアクションプランの策定委員会が非常に重要になってくる。ハードとかソフトだけの問題だけではなく、もっと泥臭い、お客さんの受け入れや、送迎などそういったものを含めてこれから取り組んでいかなければならない。富山県においても全国、世界に発信する芸術、工芸、文化ということについても力を入れて取り組んでいってもらえるということなので、鈴木さんの演劇も県、市、地元の皆さんとともにしっかりとサポート体制、もしくはスクラムを組んで取り組んでいきたい。アクションプランの策定委員会が実になるように、行動が移るように進めていかなければならない。皆様方からたくさんの意見を賜りたい。今日は県の方からもたくさん参加いただいて心から感謝したい。

２　委員・事務局員の変更について

宮下：新規委員の照会

３　平成２８年度　SCOTの活動の活動報告（資料１参照）

重政：今年も非常に盛りだくさんの年であった。まずSCOT倶楽部の会友が５０００名弱くらいで、順調に延びている。初めての方もたくさんいらっしゃって、若いお客さんが目立った。非常にありがたい。ニッポンジンや幻影日誌など小さい会場だったものは、お客さが入りきらなくて追加公演を実施した。俳優たちも世界各国から集まってくれた。利賀演劇人コンクールも今年は８団体がエントリーしていた。アジア演出家フェスティバルについては、今年はじめてインドネシアが加わった。東アジアだけではなく、東南アジアも加わったということで、お互い幅広い交流が出来たし、審査員の方からも好評だった。これが終わったすぐ後に、SCOTは２ヶ月半に渡る海外ツアーに出発した。まずは、北京の郊外でカチカチ山とエレクトラの試作品をやって、羽田に戻って１泊してすぐジョージアの首都ドリビシュというところで公演を行った。新聞記事にあるように、第７回シアターオリンピックスは今年、ポーランドで開催され、そちらでオープニング公演をして行った。ポーランドというのは、２０世紀における偉大な演劇をいくつも生み出している非常に重要な国。そこでトロイアの女の公演を行うと非常に大きな反響があった。トロイアの女は、トロイアとギリシャの戦争の渦中にある女性の物語。シリアなど戦禍が間近にせまってきている中で、この作品は素晴らしかったということで高い評価を受けた。この公演からの帰国後また上海に行ってカチカチ山を上演した。セイアン市政府の要請で市政府主催のイベントのオープニング公演であった。次に広州にいって、リア王の上演を行い１１月の末に戻ってきた。各地で非常に高い評価をいただいた。来年またSCOTサマーシーズンを８月から９月にかけてやるが、利賀に来て利賀の施設の中で、利賀の精神を学ぶものを含めてメゾットを学びたいということで、今年の５月に中国の中央学園というところから大学２年生の演劇科の学生が３０人きて、２週間滞在する。それからアメリカのニューヨーク大学とシンガポールの国立大学が合同して新しい大学をつくった。そこに演劇科が出来きて最初の授業としてぜひ利賀で合宿をさせてほしいということで、スズキメゾットを学ぶ。デンマークの大学からも要請がきている。今までは個人の人が利賀で学びたいということはあったが、最近は組織として国立大学などから利賀で合宿をして学ばせてほしいときている。おかげさまで、施設の整備も進み、受け入れ態勢も施設的には出来てきているので、積極的に受け入れていこうと考えている。ただ、食事の問題がある。どういった手当てができるのかということが課題になってくる。その辺り、皆様の知恵を拝借しながら解決していかなければならない大きな問題だと思う。先程市長から話しがあったが、２０１９年にシアターオリンピックスをということで、石井知事と市長からの要請を受けて、シアターオリンピックスの委員長であるギリシャのテオドロスさんに連絡をとったところ、ぜひ利賀でやりたいということで、２０１９年８月～９月にかけて利賀で開催ということで決定した。こちらの受け入れ態勢としても、今までと規模が違う大きなものになり、国からも注目されるものになる。そういったものをどうやって進めていくかということを、至急ロードマップを作り、具体的に施設のこと宿泊のこと、参加団体の宿泊もあるし、観光客の宿泊、輸送のこともある。そういったことに対処していかなければならない。来年の６月に、北京の国家大劇院において、１０周年記念でSCOTが、２つの作品を６公演行うことになった。ちょうど来年、日中国交正常化４５周年になる。先日国際交流基金の方から、外務省も中国との関係も微妙なので、これに向けて文化事業をやりたいと話されていた。歌舞伎をやるのは決まっているが、それに合わせてSCOTも上演し、国の大きな事業として位置づけたいという話がある。いろんな形で注目されて、舞台芸術の発信の中心になっているので、皆様と協力して進めていきたい。

市長：国が要請をして日本の代表作として歌舞伎と劇団SCOTをやるということが国の事業として決まったことは素晴らしい。もう一つ、パリの話で、実行委員長が安倍首相で、副委員長が野上さんと安藤さん、そこに鈴木さんの演劇がパリで予定されるということもあるので、国家的プロジェクトの中に劇団SCOTが確実に入ったということになる。当然南砺市全体、富山県としても、芸術集団劇団SCOTということで、サポートしていかなければならないと話しをしたところ。

重政：パリは２０１８年。

市長：鈴木さんはさっそく知事のほうに２０１９年に向けての実行委員会をどうするかという話しを進めてほしいと言われた。知事にはそういうことは報告してある。どういうような進め方をすればいいか。県のほうで重政さんとやりとりをして、どういう組織にしていくのかまずスタートで切っていなければ前に進まないのではないかということだった。重政さんの話しで、なにか質疑はあるか。無ければ次に進める。

４　平成２８年度　TOGAサマーフェスティバル実施報告　資料２（説明：石田）

市長：いろいろと企画があり、参加者のコメントでもいいところが全て書いてあってよかった。高岡のART＆CRAFTのメンバーは非常に喜んでいて、今後も南砺と高岡といろんな意味で連携してやっていこうと盛り上がっている。こういったことで広がっていくのだろう。

５　TOGA国際芸術村構想アクションプランに関する各課の取り組みについて

今枝：資料３ロードマップについて説明

今枝：ここからは各課から今年度に実施した事業の詳細な説明をお願いしたい。

平　：利賀中村体育館有効活用と周辺環境の整備ということで、整備内容としては利賀中村体育館において演劇字幕用LED表示装置を設置した。利賀中村体育館の上がったところの踊り場が狭いため広くして改修を実施した。

此尾：文化村案内所にテラスを設置した。来年の事業だが、旧利賀スキー場にある中村ロッジを解体する。演劇人会議のコンクールの時に宿泊等で利用されていたものであるが、来年度行革・施設管理課において解体を実施する。

松田：平成２８年度はグルメ館のトイレ改修工事を実施している。２４００万円ほどかかっており、８月１２日に竣工している。トイレの数は改修前と改修後で増えている。グルメ館のご活用を今後ともお願いしたい。

宮下：ふるさとの森リフレッシュ事業についてだが、旧利賀スキー場では、冬季は「スノーパーク」の位置づけで事業を進めている。南砺利賀そば祭りに合わせ、カマクラを使っての体験やかんじき・木ぞりなどで新しい雪遊びを提供する仕組みを構築していく。また、スノーパークのアイテムの１つとして、ロープリフトを設置し地元の子供たちのスキー教室や観光客のスキー・スノーボードの体験に利用していく。市の補助事業を活用し、自己資金３００万円を村内及び出身会等にお願いしに出向いており理解を頂いている。現在、スノーパークの管理運営組織として「一般社団法人　NANTO　LIFE」の設立に向けて調整を行っている。

柴　：交通網の整備については、現状で、利賀井波線、利賀八尾線、村内線の３本というかたちで運行している。今年度の実績としては、SCOTサマーシーズン期間中、ご利用が多かった便があり、２回増車対応をした。人数についても、昨年度より実績値が上がっている。反省点としては、利賀八尾線の運行時間。関東の方からいらっしゃるお客様が北陸新幹線を使い富山に到着後、高山線で八尾に降りられて、その後利賀八尾線をご利用していただくといったことが１つのルートとなっている。しかし、今年度当初の時刻設定の際に、こちらとバス会社、利賀行政センターとの協議が十分うまくいかなかったということで、東京の方から来られたお客様が八尾で降りられたとき、利賀八尾線の午前中のものに間に合わなかった。来年度の運行時刻については、今年度みたいなことがないように、地元、行政センター、運行会社との協議をしっかりと行い、トラブルがないようスムーズな接続になるようにしていきたいのでよろしくお願いしたい。

宮下：今年度はアウトドア食材ということで、１１月９日にアウトドア食材ワークショップを開催した。利賀地域で採れる食材、山菜やジビエなどを利用して新たな調理方法やメニュー等を考案して提供できないかということで、実際料理等を作ったりしている。現在村内にキッチンカーで地域おこしをしている地域おこし協力隊や、フレンチシェフやイタリアンシェフが利賀地域内にいるということで、この方たちにもいろいろと提案をしていただきたいと思っている。また、NHKのプロフェッショナルで紹介された有名シェフの方が利賀地域でレストランを展開できないかということで、先月、場所を見させてほしいということで利賀行政センターのほうで案内して歩いた。気に入られたところ数カ所あったが、冬場の除雪が行われていないところや、ライフラインが整っていないところがお気に入りだったようだった。この後も何回か来られるので、いろいろ調整していきたい。皆さんのご意見を聞いていると、ジビエを扱うのであれば解体処理施設が利賀地域内に必要なのではないかという意見が出ていた。

今枝：１３Pに中村体育館周辺の地図が記載されてある。今年度工事したハード面に関するものは青の付箋で記載してある。昨年度、TOGAサマーフェスティバルでテントを張った創価学会の敷地に関しては、創価学会と土地の譲渡について交渉中。土地の管理についてはふるさと財団と調整中。今年度、サマーフェスティバル実施期間中にテント泊の敷地として利用させていただいた利賀国際キャンプ場については、センターハウスの方を利用したテント泊も実行委員会にて検討中とのこと。今年度実施した事業については、平成２７年度にTOGAアジア・アーツ・センター支援委員会から要望書をいただいて、そちらの要望の内容の継続というかたちでこれらの事業を実施した。

奥田：ロードマップに記載があったが、今年度宿泊施設石麗の暖房設備の配線の工事をした。また、県文化振興財団の協力を得ながら、利賀芸術公園内における舞台芸術活動に関する情報発信の強化ということで取り組んでいる。具体的には情報発信及び多言語化に対応を強化するため、５点について改修を実施した。１点目、利賀芸術公園の公式HPを日本語、英語、中国語、韓国語の４ヶ国語に全面的に改修した。２点目は、利賀芸術公園を紹介するDVDを作成している。英語の字幕が付いたものだが、各種視察対応等の説明用として活用している。３点目は多言語での紹介のパンフレット作成。４点目は、創造交流館１階にある常設写真展示コーナー設置して、これまでの利賀の活動をアピールしている。５点目は、海外利用者対応看板等の設置ということで、利賀芸術公園入口案内図、創造交流館の中の誘導の表示版、総合案内所で対応している。

市長：３、４、５と次第通り進めてきたが、質問、ご意見はあるか。鈴木さんのブログが不定期にUPされる。できるだけそういうことを重政さんの方から連絡をいただいて、皆さんで目を通しておいていただくと、我々にとっては仕事の考え方や、活動が分かるので劇団SCOTのHPを読んでおいていただきたい。

わたしが聞いている範囲だが、来年度に向けての検討課題としていくつかある。１つは、シアターオリンピックスに向けての課題で、宿泊の中で大学生や海外のお客様に対する食の提供をどうするか。期間中に村の人を使う、市内の誰かがやるなどいろんなアイディアが出てくるだろうが、確実に食の提供の確保をしていかなければならない。また、期間中に台風や大きな風が吹いた場合、テントをキャンプ場に張っているが、もう１つスノーバレーのスキー場の中に避難的なテントを張っておくということを検討できないか。電気をどう引っ張るかなどは検討しなければならない。もう１つは、医療の問題だ。もし海外の方が長きに渡って滞在をされるシアターオリンピックス期間中などは医療体制をどう組んでいかなければならないのかということも課題である。そういったことをそれぞれの課で検討していくということでお願いしたい。

谷井：簡易的で小さなコテージが少しあってもいいのではないか。天候に左右されないで、野外キャンプを楽しむお客さんを確保できるのではないか。

市長：地域おこし協力隊も縛り縛りにしていなく、そこでお金設けをしてもらってもいいということになっている。そういう人たちが、料理を出し、その人たちにお金が入ることも考えていくべきかもしれない。３年間の地域おこし協力隊が、そのままそこでビジネスとしてやっていくという道を広げてあげたい。キッチンカーでやっていただいている方々も含めていろんな形で参画できるように考えていければ。コテージについては、少し高価なものは難しいが長田組さんがやっている木造のものがいくつか並べば、非常に違うなとは思っている。

谷井：冬の管理をどうするかという問題がある。潰れてしまっては困る。

市長：２０１９年でシアターオリンピックスが決まったということで確実に進めていくということが大事である。

６　その他

石田：資料２、８Pから説明

市長：今の説明を受けて、何か意見はあるか。

清原：利賀については、国際的な演劇という核があるので、県としても文化行政のモデルケースとしていきたい。県・市・地元地域・劇団が一丸となって事業を進めていきたい。

市長：シンガポールのエール大学の学生さんたちに、力を入れながらお金を払ってシンガポールにＰＲしている。ここから来てくれる学生たちが、こんなところもあったと帰ってくれることが１番いい。観光や文化振興などいろんな意味からＰＲに繋がっていくだろう。皆で力を合わせてやっていくことでよろしくお願いしたい。

閉会